

城崎国際アートセンター アーティスト・イン・レジデンス 国際的な作品制作が進行中

城崎国際アートセンターでは、アーティスト・イン・レジデンス(アーティストの滞在制作)を中心に事業を展開しています。

6月の日本劇作家大会では約50人のアーティストが滞在中に作品を創りました。来年3月までに、21のレジデンスの予定があります。滞在中、アーティスト



▲劇団衛星「大人の演劇部 in城崎ワークショップ」

7月は、劇団衛星が海外展開用作品を制作し、12日に演劇ワークショップを、13日に参加費無料の試演会を開催しました。

また、国際ダンスフェスティバル「Dance New Air 2014」参加作品の制作も行われ、7月20日、滞在中、アーティストによる「小野寺修二×片桐はいりトークショー」が催されました。はいりさんは、5年前に但馬を1人旅したときの話を、小野寺さんは城崎に滞在中に感じたことなどを語りました。トークショー



▲「小野寺修二×片桐はいりトークショー」

の後半から中貝市長が加わり、アートセンターができた経緯や豊岡のお勧めスポットなどの話題で盛り上がりしました。

8月には、城崎国際芸術夏季大学、ダンスの「鈴木ユキオPROJECT」新作滞在制作「アルマニアのプロジェクト」[Eastern Connection]の滞在中に行われていきます。アメリカやアルマニアの色豊かな地域還元プログラムも開催されました。

「豊岡ファンが確実に増えています」 好調！アンテナショップ「コウノトリの恵み豊岡」

東京・有楽町に開設している本市のアンテナショップ「コウノトリの恵み豊岡」は、開店から3年が経過しました。1年間(7月～翌年6月)の売上額を比較すると、2年目は初年より34%増え、3年目は、2年目より35%増加しています。



▲豊岡の魅力を発信するアンテナショップ

好調の要因は、店舗の認知度がアップし、固定客が増加したこと、特別販売や曜日限定販売が功を奏していることなどが考えられます。

また、店内でふるさとスケッチ映像を放映したり、催事で観光パンフレットやイベント情報チラシを配布するなど、本市のPRに努めています。

「ヤフー(株)と「災害に係る情報発信等に関する協定」を締結

7月18日、ヤフー(株)と「災害に係る情報発信等に関する協定」を締結しました。

- 避難所等の防災情報を平常時から掲載
- 市内の避難勧告、避難指示等の緊急情報
- 災害発生時の市内の被害状況、ライフラインに関する情報や避難所におけるボランティア受入れ情報
- 市内の避難所等における必要救援物資情報

「7月」主な市政の動き

- 10日・市民と市長の座談会(五荘地区、11日・三方地区、12日・三江・豊岡地区、14日・八条地区、16日・港地区、17日・田鶴野地区、23日・新田地区、24日・奈佐地区、25日・神美地区、※以上公民館、31日・日高農村環境改善センター)
- 17日・全国高等学校総合体育大会陸上競技出場選手激励会(24日・なぎなた)
- 19日・コウノトリ未来・国際かいぎ(20日)
- 28日・夏休み子ども防災監養成講座(30日)
- 31日・2013植村直己冒険賞受賞者展「田中幹也特別展」(11月30日)
- 7日・国際交流員(CIR)辞令交付式
- 出石水楽館が兵庫県重要有形文化財に決定

少年期の防災教育で減災・防災意識を育む

「夏休み子ども防災監養成講座」開催

7月28日から30日まで、市役所本庁舎や公立豊岡病院、消防本部を会場に、夏休み子ども防災監養成講座を開講し



▲まち歩きの後、地図に危険箇所などを書き込む

ました。市内の小学5・6年生46人が参加し、9時限の講座を受講しました。

子どもたちは、本市で起きた災害、災害を小さくする対策、図上訓練と防災マップの活用方法、救急救命方法などを学び、ドクターヘリ・ドクターカーや消防本部司令室などを見学し、はしご車にも乗りました。



▲女性消防団員に救急救命方法を学ぶ

普段体験できない特別プログラムは、きつと子どもたちの夏休みのよい思い出になったことでしょう。

世界を知り、豊岡の良さを知る

韓国慶州市と本市は友好親善都市で、相互に訪問して交流を続けています。

7月22日から25日まで、本市の小学生ら18人が慶州市を訪問しました。子どもたちは、韓国語や韓国のコウノトリのことなどを事前学習して臨みました。

慶州市では、東川初等学校で交流し、日本や豊岡について児童自ら紹介しました。ま



▲韓国の学校給食を体験

た、授業や給食に参加し、韓国の学校生活を体験した後、市内7家庭でホームステイしました。その後、釜山や金海市

を訪問。金海市花浦川湿地では、豊岡から飛来したコウノトリを観察する予定でしたが、残念ながらコウノトリとの対面はかきませんでした。「小さな世界都市 豊岡」を担う子どもたち。このよ

韓国慶州市東川初等学校との交流

中貝市長の徒然日記 82

渡仏記

7月上旬、全仏都市連合の招きでフランスに行ってきた。同連合主催の「持続可能な都市」に関する会議に、「そのテーマなら日本の豊岡を招くべきだ」という提案が実を結びました。売り込んだのは、自治体国際化協会パリ事務所長の黒瀬敏文さんです。黒瀬さんは、以前中貝が総務省の新人官僚の研修で講演をした際、担当者として豊岡の取組みを聞いておられたのです。

開かれたアジア湿地シンポジウムや韓国での生物多様性に関するシンポジウムでの反応も同様でした。豊岡の取組みは世界に通用する。その確信を改めて持ちました。

パリでのスピーチは上々でした。コウノトリの野生復帰と環境経済戦略を中心に話しました。日本で講演するときと同じ個所で笑いが起き（笑いはフランス語でも一緒に笑す）、会議の締めくくりでは、座長が「それぞれのコウノトリを見つけよう」と発言するなど、キーワードはすっかりコウノトリになりました。

滞在中強烈に感じたことがあります。パリ郊外の景色のつまらなさです。どこにでもあるような、四角いコンクリートの建物の同じ顔をした街でした。そこに住む人々の暮らしは、もちろんかけがえないものですが、景観としては、文化的に存在する価値がないと言われても仕方のないようなものでした。城崎や出石のような伝統的街並みは、世界が魅力的であり続けるためにも残していかなければならないのだ！と、妙に肩に力を入れて帰ってきました。

会議終了後には「この話を聞いただけで来たかいがあった」と話しかけてこられた方もありました。数年前中国で

帰ってきたら、例の問題で城崎温泉がとても有名になっていました。「片道12時間かけてフランスに行って、城崎温泉を必死に売り込んだきた私の努力は何だったのだ？」妻に八つ当たりをする中貝でありました。